「家族」

園長　鈴木　勝子

五月晴れの澄み渡った空のように、日本中が清々しい気分で新たな時代を迎えました。令和の意味するごとく一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることが出来る時代となることを願ってやみません。四月十三日（土）の保護者会総会懇談会にはたくさんのお家の方にご参加いただきありがとうございました。園からは当園の教育保育理念・目標についてパワーポイントを用いてお伝えしました。その後の懇談会では理念・目標に基づいた具体的な教育保育についてクラス担任より伝えさせていただきました。新年度の始まりにあたり、保護者の皆さまと共に聖隷こども園ひかりの子の保育を再確認する機会が与えられたことに感謝いたします。

さて、長かった大型連休はいかがお過ごしでしたか。ご家族でのんびり過ごされたり、皆さんでお出かけされた方も多いと思います。こども園では、毎年この時期になると「母の日」「父の日」を通して『家族』について子どもたちと一緒に考える機会を持っています。毎日当たり前に顔を合わせ会話をして、当たり前すぎてつい感情的になって泣いたり怒ったり、笑い合ったりできるのが『家族』ではないでしょうか。今日では一般的な行事となった「母の日」「父の日」ですが、もともとは〝父と母を敬いなさい〟という聖書の中の教えに基づいた教会の記念日だそうです。この教えを深く受け止めて、自分の子どもや教会学校の子ども達に、神さまが与えて下さったお父さん・お母さんを大切にしなさい。と熱心に伝えたアン・ジャービス夫人の追悼会が発端となってアメリカで一九一四年五月第二日曜日を母の日と定め、それが日本にも伝わってきました。それに倣って、六人の子どもを男手一つで育てた父親を敬愛したクリスチャンの女性が「父の日も母の日のようにあるべき」と父親の誕生日である六月の第三日曜日を「父の日」としてお祝いするようになったそうです。その他にもヨーロッパでは「母の日」は奉公に出ている子どもが年に一回母親と会える記念の日であったり、アメリカでは子どもを戦場に送るのを拒否する母親宣言の日であるという話も聞いたことがあります。いずれにしても普段はつい当たり前に思い、忘れがちな家族の愛ですが、家族を思いその家族を与えて下さった神さまに感謝する日だと考えます。

子ども達を取り巻く家族の状況は、ずいぶんと多様化し複雑化してきています。どのような状況であっても、子どもは神さまや周りの人たちに愛され、守られて産まれてきたこと、また今現在も愛され育てられていることを実感できるように伝えることを職員間で確認し合っています。「母の日」「父の日」は家族の事を考え、家族を与えてくださり守ってくださる神さまに感謝する。という意味から、「母の日」「父の日」＝目に見える形のプレゼント、「〇〇してくれてありがとう」だけでなく、聖書に基づいた〝父と母を敬いなさい〟という感謝の気持ちを子ども達からお家の方に伝えることが大切だと考えます。

新しい時代を迎え、子どもたちの一番の心の安全基地である『家族』について、社会全体で見直すことが明日への希望が持てる時代の第一歩なのかもしれません。